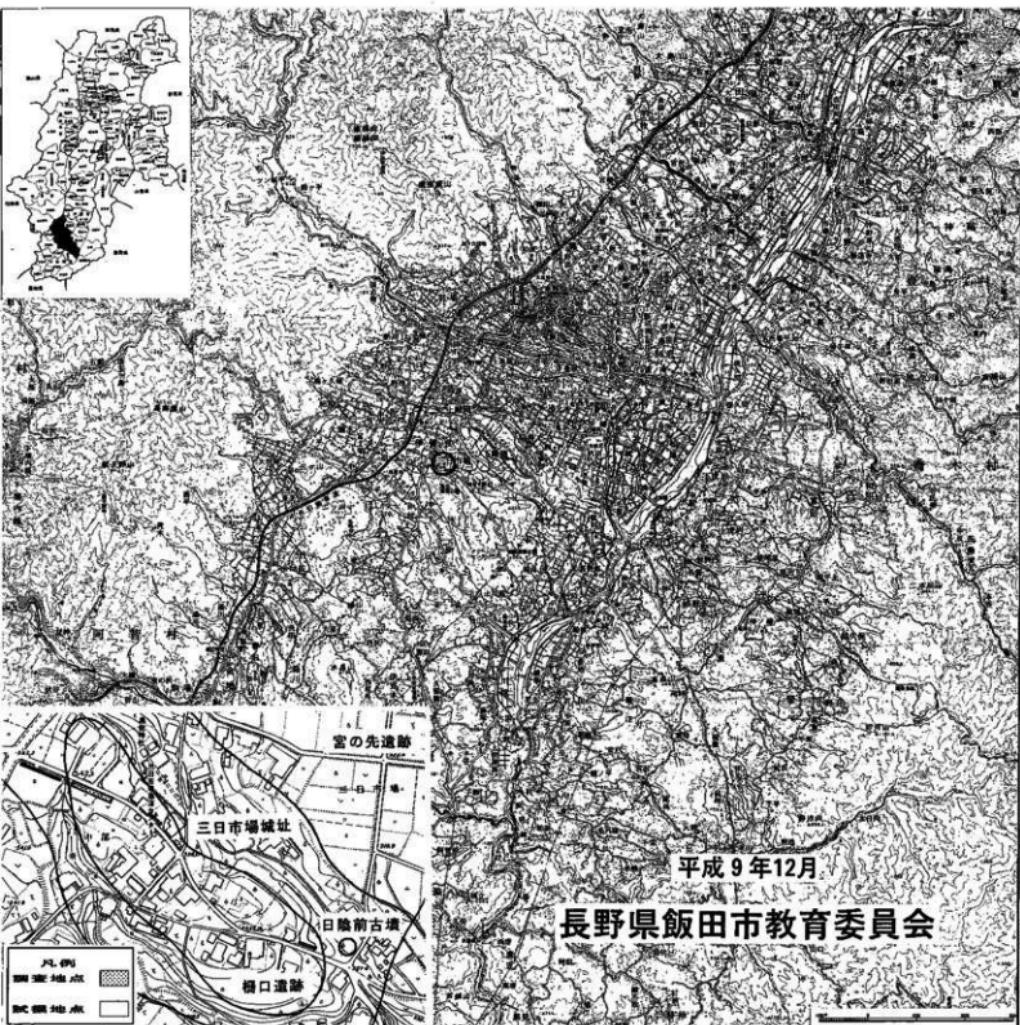


ま せ ぐ ち い せ き
柵 口 遺 跡



例　　言

1. 本報告書は地方特定道路整備事業島垣外・宮洞線道路改良事業に伴い実施された、飯田市伊賀良三日市場所在の埋蔵文化財包蔵地柵口遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は飯田市建設部からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
3. 調査は平成8年度に現地調査を、9年度整理作業及び報告書作成作業を行った。
4. 発掘調査及び整理作業は一貫して遺跡名に略号MSGを用いた。
5. 発掘調査位置は国土基本図の区画、LC-84に位置し（社団法人日本測量協会 1969 「国土基本図式 同適用規定」参照）、グリッド設定は株式会社ジャステックに委託した。
6. 本書は吉川金利が執筆・編集を行い、小林正春が総括した。
7. 本書に掲載した遺構図の中に記した数字は、それぞれの深さ(cm)を表している。
8. 本書に関連する出土品及び諸記録は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館で保管している。

I 調査の経過

柵口遺跡の所在する飯田市伊賀良地区は国道153号バイパス（通称アップルロード）・運動公園通りなど当市の主要道路が開通して以来、開発が急速に進み、その沿線の市道の改良が増してきた。

島垣外・宮洞線道路改良事業もその一つであり、事業が埋蔵文化財包蔵地内で行われるため、事業主体者である飯田市建設部土木課と長野県教育委員会、飯田市教育委員会の三者に於いて埋蔵文化財保護協議を行った結果、当該遺跡の状況が不明であるため、試掘調査を行い遺構・遺物が確認された場合、発掘調査を行って記録保存をするという結論が出た。

上記の保護協議の結果に基づき、平成9年1月20日に対象地区の一部に於いてトレンチによる試掘調査を行った結果、堅穴住居址・ピットと思われる遺構が確認されたため、その箇所を拡張して発掘調査を行う事とした。2月7日より重機にて表土剥ぎを行い、10日より作業員による精査を開始した。また、建造物・耕作物などの処理ができていない箇所においては3月12日より重機でトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。計4本のトレンチ調査を行い、遺構・遺物が出土し拡張して調査したのは1箇所であった。また、3月17~21日に写真及び図面などの諸記録の基本整理を行い、平成9年5月20日より出土遺物の整理・図面整理等を開始し、本報告書の刊行となった。

II 調査組織

調査団

調査担当者 佐々木嘉和 吉川 金利

調査員 吉川 豊 山下 誠一 馬場 保之 下平 博行 伊藤 尚志 福澤 好見作
業員 鳴海 紀彦 細田 七郎 山田 康夫 吉川 和夫

事務局

飯田市教育委員会博物館課

矢沢 与平（博物館課長～9. 3）	小畠伊之助（博物館課長9. 4～）
小林 正春（埋蔵文化財係長）	牧内 功（庶務係）
吉川 豊（埋蔵文化財係）	山下 誠一（埋蔵文化財係）
馬場 保之（ “ ” ）	吉川 金利（ “ ” ）
福澤 好晃（ “ ” ）	伊藤 尚志（ “ ” ）
下平 博行（ “ ” ）	

III 調査結果

今次調査に於いて確認された遺構は下記のとおりである。なお、遺構・遺物が検出されなかったトレンチについては詳細は省略し、位置のみ表示する（表紙調査位置図参照）。

- ・ 竪穴住居址（弥生時代後期）1軒
- ・ ピット （中世）

1. 竪穴住居址

1号住居址（挿図2）

検出位置 重複	AH-11	覆土		削平されてなし
		床	面	たたき状で良好
規模・形状 規模	切られる 中世ピット		主柱穴	P 1～3
	プラン 圏丸方形		貯藏穴	
規模・形状 形狀	規模m (2.95)×(2.95)		入口	
	主軸 N44°W		炉形状	新：土器埋設炉 旧：炉縁石を有する地床炉
壁高cm	壁高cm 0		・規模cm	新：(45)×45 旧：50×(40)
	状態 削平されてなし		竈	特記事項 新旧あり

出土遺物（挿図2）

甕（土器埋設炉に使用、二次焼成受け文様・調整等不明）

特記事項

炉址新旧あるが、増築・改築の痕跡は見られない。

時期	弥生時代後期	根拠	出土土器
----	--------	----	------

2. ピット

調査区北西側で検出した。掘立柱建物址の柱穴の可能性が高いが、建物単位として把握できたものはない。その多くが覆土の状況から中世に位置付けられる。

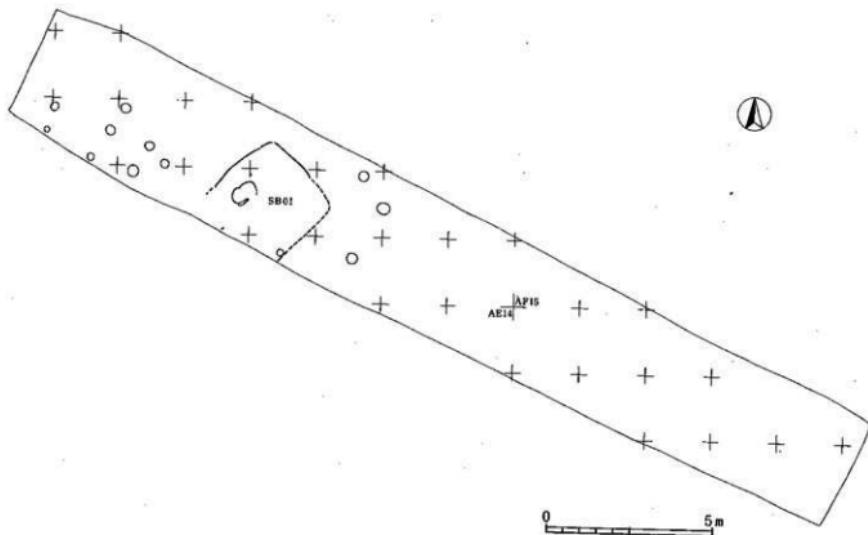
IV まとめ

調査した面積・遺構等が少なく遺跡の状況が十分に把握できたとはいえないが、気付いた点を掲げ、まとめとしたい。

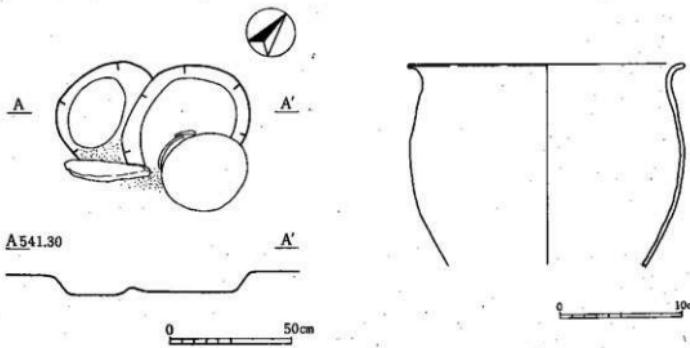
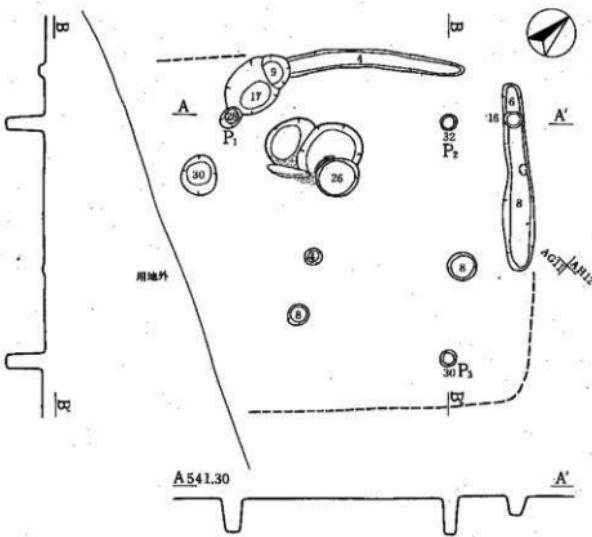
弥生時代後期の堅穴住居址が1軒確認された。該期の集落は当地方では普遍的に見られる。本遺跡に於いては詳細は不明であるが、トレンチ調査で該期の遺構が検出されなかったという点から、小規模な集落であったと思われる。検出された住居址の炉址は新旧あり、旧炉は地床炉で新炉は土器埋設炉であった。当地方では該期の炉址の形態としては他に石組炉がある。これらの形態の違いは如何なる意図があるのか、なぜ作り替えたのか、現状では不明であるが他の遺跡等と比較するなど今後究明していく必要があると思われる。

当該地はその小字名から「柵口遺跡」とされているが、中世期の「三日市場城址」であるともされている。これらは密接な関係にあり、『ませぐち』は所謂「馬柵口」で、馬小屋の横木または牧場の柵の横棒の意であり、つまりは馬関係の施設を示すと考えられる。故に本次調査で確認した中世期と思われるピットは馬関係の施設の可能性がある。前述したように建物単位では把握できなかつたが注目される点である。

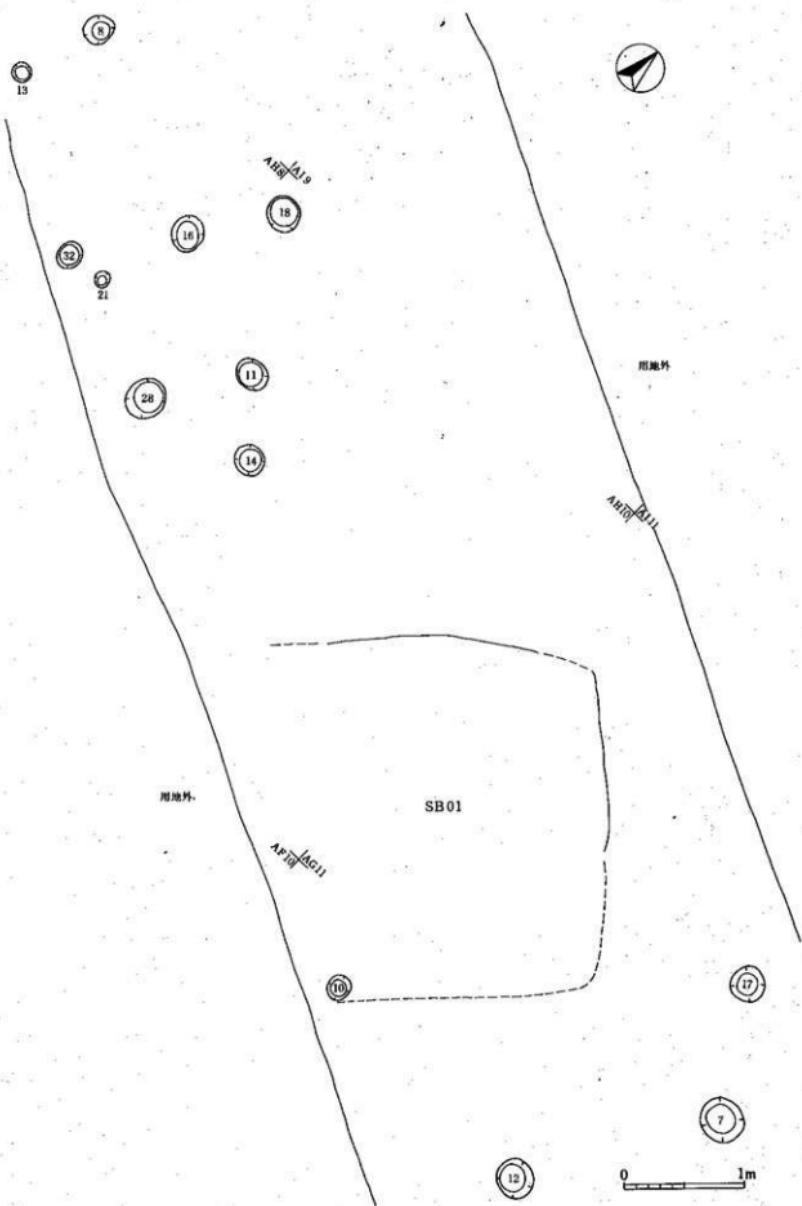
以上のように今後の問題点や確認された事を述べてきたが、これらを解決するべく今後の周辺の開発には十分留意し、本遺跡の性格を明らかにしていきたい。



挿図1 遺構分布図



插図2 1号住居址及び出土土器



挿図3 ピット

写 真 図 版



柵口遺跡調査前近景



1号住居址



全 景



1号住居址炉址



重機作業 スナップ



調査スナップ及び委託測量スナップ

報告書抄録

ふりがな	ませぐちいせき						
書名	柵口遺跡						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	吉川金利						
編集機関	長野県飯田市教育委員会						
所在地	〒395 長野県飯田市上郷飯沼3135 ☎ 0265(53)4545						
発行年月日	西暦1997年 12月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東緯 。	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
柵口遺跡	飯田市三日市場 1067-1他	2053		35 29 17	137 48 1	平成9年1月20日 から 平成9年3月12日	130 市道改良
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
柵口遺跡	集落址	弥生時代 中世	竪穴住居址 ピット	弥生甕	・中世期「三日市場城址」の馬関係の建物柱穴か?		

ませ ぐち いせき
柵口遺跡

—緊急発掘調査報告書—

平成9年12月発行

発行 長野県飯田市教育委員会

印刷 傳新葉社